

県立高校将来構想における高校改革状況

1. 生徒の多様な個性や特性に対応した魅力ある高校づくりの推進

魅力ある多様な高校づくりが順調に進んでいる

(1) 特色ある学科の設置

総合学科、単位制高校などの、特色のある学科の設置により、生徒の多様化に対応した学校づくりが進んだ。

総合学科の設置 単位制高校の設置

地区等	総合学科の設置状況	単位制高校の設置状況
南部	伊具・村田	伊具・村田・蔵王
中部南		
中部北	宮城野	宮城野・利府・宮城第一(H20)
北部	小牛田農林・迫桜(H13)	小牛田農林・迫桜(H13)
東部	本吉響・河南(H22)	本吉響・河南(H22)
定時制		貞山・東松島(H17) ・田尻さくら(H20)

設置予定を含む。

専門学科の設置及び改編

年度	学校名	学科転換等の内容
H13	飯野川	家政科 生活福祉科
	加美農業	生物工学科(廃止)
H14	黒川	建築工学科 土木科
	白石女子	衛生看護科 看護科
	古川女子	衛生看護科 普通科
H15	米谷工業	電子機械科・電気科・情報電子科 機械システム科・電気システム科・情報技術科
	石巻工業	機械科・電気科・工業化学科・土木科 機械制御科・電気情報科・化学技術科・土木システム科・建築科
	築館	理数科(廃止)
H16	古川工業	電気科・電子科 電気電子科
	南郷	食品化学科・生活科学科 普通科
	鷺沢工業	機械システム科・電気技術科・コンピュータ応用技術科 機械科・電子科
H17	米山	産業技術科 園芸ビジネス科
H18	上沼	農業科・環境土木科 農業技術科
	石巻商業	会計科・国際経済科・情報処理科 総合ビジネス科
	柴田農林	農業科学科・森林科学科・環境デザイン科・土木科 食農科学科・森林環境科・園芸工学科
H22	黒川	農業経営科・電子機械科 機械科・電子工学科

設置予定を含む。

(2) 全日制高校の充実

普通科では特色ある教育課程の編成に取組んできた。また専門学科や総合学科でも社会の変化に対応した教育課程の見直しを進め、社会と連携した体験学習の充実にも取組んできた。

普通科

・全日制普通科における特色ある教育課程編成状況

H14: 延べ99学科 H19: 延べ106学科

普通科の中でいくつかの特色ある教育課程を実践している学校の延べ数(1校で複数回答あり)

専門学科・総合学科

・新学習指導要領の実施に伴い、教科「情報」をすべての高校で実施

・高大接続(高等学校独自の取組: H19)

石巻商業高等学校と石巻専修大学との連携事業

白石工業高校と東北工業大学との連携事業

柴田高校と仙台大学との連携事業

・クラフトマン21事業(H19)

インターンシップ: 88社 289名の生徒受入

企業の技術者による指導: 140社生徒延べ1,104名受講

(3) 定時制高校及び通信制高校の充実

定時制については、多部制・単位制の独立校の整備を進めた。通信制については、独立校の整備計画を具体化した。

学級編制について

・定時制については40人未満の学級編制の将来的な可能性を検討することとしていたが単位制の学校を除くと、全て25人以下で編制されている。

全11校(1年次21学級)の学級編成状況(H20)

学級人数	学級数
25人以下	11
26~30人	0
31~35人	3
36~40人	7

学習指導体制

・「三修制(三年間で卒業できる制度)」及び「単位制」などの特色のある高校を設置
・「単位制」である東松島・貞山高校では、昼間部と夜間部との乗り入れ等により、1日4時間を超えた授業を実施

昼夜間定通併修独立校(定時制と通信制を併設した高校)の設置

・平成24年4月に通信制の独立校を名取市下増田に整備する予定

(4) 中高一貫教育及び中高連携教育の推進

併設型及び連携型の中高一貫教育校を設置した。それぞれの現状と課題や成果を確認しながら中高一貫教育を進めている。

中高一貫教育校を設置

東部	志津川(連携型)(H15)
北部	古川黎明(併設型)(H17)
中部南	宮城第二女子(併設型)(新名称・仙台二華)(H22)

設置予定を含む。

中高連携教育の普及の推進

・志津川高校と南三陸町内の4つの中学校において中学・高等学校の連携による中高一貫教育を推進し、中高教員が相互に乗り入れた授業を展開

(5) 多様な個性や特性に対応した教育の推進

基礎・基本の着実な定着と授業改善に向けた多くの取組が進んでいる。進路指導の成果が着実に出てきている。

授業の内容・方法の充実

・各高校が自校の課題を的確に把握し、その解決のための創意と工夫に基づく、特色ある学校づくりの支援事業を実施

みやぎ高校いきいき夢プラン事業(H15~17 13校)

学校活性化プロポーザル事業(H15~18 3校)

個性かがやく高校づくり推進事業(H19~21 13校)

・宮城教育大学との連携による「Sanuma授業塾」(地域・小中高と一体となった授業改善プロジェクト)の実施(H15~)

・地域別授業力向上アクション校(H18~20 21校)

特別活動等の充実

・これまでMAP(みやぎアドベンチャープログラム:課題解決型体験学習法の一つ)を何らかの形で導入した県立高校49校 (59.0%)

部活動の在り方の検討

・小規模校の部活動の充実のための女川高校生徒の地元クラブチームへの参加(H19)

教育相談機能の充実

・スクールカウンセラーの配置率 100% (H19)

・教職員向け研修の実施状況 38校 47件 受講教員数1,085名 (H19)

進路指導の充実

・就職決定率 H14: 78.1% H20: 95.1%

・現役進学率 H14: 35.0% H20: 44.9%

・進学指導地域拠点形成事業(H19~21 11校)

・就職推進校モデル事業(H18~20 3校)

・就職支援スキルアップ事業の実施

・全日制高校 5,403名の生徒が2,192社にて職場体験・体験活動実施(H19)

2. 生徒数の減少に対応した学級減及び学校再編

各地域の事情に配慮しながら計画的に学級減・学校再編が進んでいる

(1) 全日制高校の適正配置

活力ある教育環境を念頭におきながら、生徒数の減少に対応して学級数の削減と学校再編に取り組んできた。学校の活力維持のため、普通高校の統合を実施した結果、普通科の比率が若干低下している。学級数が減少した一部の専門高校では、学科の統合を行った。

生徒減少への対応

年度	学校名	学校再編の状況
H13	栗原農業	迫桜高校に統合
	若柳	
H17	角田	角田高校に統合
	角田女子	
	築館・築館瀬峰	築館高校に統合
	築館女子	
	気仙沼	気仙沼高校に統合
	鼎ヶ浦	
	矢本(全日・定時)	
	石巻(定時)	東松島高校(昼夜間開講型単位制)に改編 統合
	石巻女子(定時)	
H19	白石(定時)	大河原商業高校(定時制)に統合
	大河原商業(定時)	
H21	岩ヶ崎	鷺沢工業高校を岩ヶ崎高校鷺沢校舎として統合再編
	鷺沢工業	
H22	白石	白石地区統合高校に
	白石女子	
	塩釜	塩釜地区統合高校に
	塩釜女子	

設置予定を含む。

・飯野川高校を募集停止とした。(H20)

適正配置の方針 - 1学年6学級規模程度の学校を各地区に配置

全日制高校の地区別・学級規模別学校数(H20)

地区	6学級以上	6学級未満	合計
南部	1	10	11
中部南	10	2	12
中部北	13	2	15
北部	5	16	21
東部	4	10	14
合計	33	40	73

普通科(総合学科を含む)の比率の状況

・普通科比率(定員比)の状況 H14: 73.2% H19: 72.4%

(2) 定時制高校・通信制高校の適正配置

定時制については、多部制・単位制の独立校の整備を進めた。通信制については、独立校の整備計画を具体化した。(再掲)

仙台南地区・仙台北地区における昼夜間定通併修独立校の設置

・平成24年4月に通信制の独立校を名取市下増田に整備する予定

仙台南・北地区以外での、昼夜間開講する新しいタイプの定時制独立校設置

中部北	貞山
東部	東松島(H17)
北部	田尻さくら(H20)

3. 開かれた学校づくりの推進

開かれた学校づくりが着実に進んでいる

(1) 学校評議員制度の導入

学校評議員が制度として定着しており、地域に開かれた学校づくりが進んでいる。

- ・学校評議員の設置率 H12:18% H14:100%
- ・学校長の諮問機関としての役割を担ってきており、学校の教育活動の指針の一助となっている。

(2) 学校の自己点検・自己評価システムの導入

学校の自己評価や外部評価を導入し客観的な視点からの学校改善が進められるようになった。

- ・すべての県立高校において毎年度末に学校評価を行い、県教委に報告。
H14(試行):90% H19:100%
- ・学校評価の研修の充実や学校評議員等の外部評価機能の活用により学校評価の質の向上を図っている。
学校評価の実施は、学校運営へのPDCAサイクルの導入に効果を上げつつある。

(3) 生徒による授業評価の充実

生徒による授業評価の実施率が高まっている。

- ・生徒による授業評価の実施率 H14:14% H19:84%
- ・生徒による授業評価を実施する学校が増えており、各学校における授業改善及び生徒の意欲喚起に役立っている。

(4) 学校自由見学日の設定

学校公開日の設定が定着し、授業参観設定日数も増加している。

- ・学校公開日設置校数
H14:60.9% H19:100%
- ・授業参観設定日数(平均)
H14:0.5日 H19:9.1日

(5) 学校施設の開放

生徒の教育活動に支障のない範囲で学校施設の開放を行っている。

- ・県立高等学校体育施設(校庭・体育館等)の開放状況
H15:87%(73校/84校) H19:85%(70校/82校)

(6) 社会人の授業聴講制度の導入

一部の高校で、試行的に実施している状況である。

- ・利府高校において試行的に実施している。
- ・定時制の東松島高校、貞山高校の一部の授業において社会人が科目履修生として授業を聴講している。
- ・高等学校開放講座(みやぎ県民大学)を実施している。
開催校・受講者数 H14:10校 311名 H19:20校 433名

(7) 高校間の単位互換制度の導入

定時制の生徒が通信制の単位を取得し、3年間で卒業を目指す仕組みとして取組まれている。

- ・貞山高校に在籍している生徒が仙台一高通信制で取得した単位を卒業単位として認定している。また、2校間で転編入を行った場合、前籍校で取得した単位を卒業単位として認定している。

(8) 他の教育機関との人材交流

社会人講師の活用や学校外研修を実施し、教員への大きな刺激となっている。

- ・社会人講師の活用状況 - 県立高校において延べ1203回の実施。(H19)
講師:大学教授, 会社役員, 工場長, 専門学校講師等
社会人による講話や講義の受講により、生徒の進路意識の高揚が図られている。
受講後の学習意欲の向上により、技能向上・国家資格取得者数増大等の成果がみられた。

(9) インターネット等を活用した学校情報の発信

すべての高校でホームページを開設し、広く学校情報を提供する体制が整備されている。

- ・ホームページの開設状況:100%(H19)
すべての学校でホームページを開設し、広く学校の情報を提供しており、開かれた学校づくりにつながっている。

4. 男女共学化の推進

平成22年度からの完全実施に向けて、男女共学化を着実に推進している

統合共学化
築館・築館女子、気仙沼・鼎が浦、角田・角田女子
(実施済み)
白石・白石女子、塩釜・塩釜女子(平成22年度)

単独校の共学化
仙台二、古川、石巻、第一女子、石巻女子
(実施済み)
仙台三(平成21年度)
仙台一、第三女子(平成22年度)

中高一貫教育校への改編と合わせた共学化
古川女子(実施済み)
第二女子(平成22年度)

設置予定を含む。

・全日制高校の別学割合
H13:26%(20校/77校) H20:11%(8校/73校)

5. 教育諸条件等の整備

教員の加配の活用や研修制度の充実など教育条件の改善が進んでいる

(1) 教職員の配置及び学級定員等の検討

学級編成基準に係る国の動向を踏まえ、教員の加配制度を積極的に活用している。

- ・教員加配の活用状況 習熟度加配による教員配置
県立高等学校における加配教員数/校長・教頭・教諭の配分教員数
H14:142名/3,621名 H20:147名/3,270名
教員の配置については国の基準に従って実施し、習熟度、少人数指導、チームティーチング等、学校の実情に応じた取組を行なっている。

- ・学級編成基準の検討状況
他県調査を行い、さらに検討中である。

(2) 教員研修制度の充実

授業力を中心とした教員の資質向上を推進するため、実践的指導力を高める校内研修を始めとした教員研修の充実を図っている。

- ・県の教員研修の指針として「宮城県教員研修マスタープラン」を策定し、授業力を中心とした「みやぎの教員に求められる資質能力」を明確にするとともに、校内研修を始めとした教員研修の充実の方策を定めた。(H19)
- ・宮城教育大学などとの連携により、大学の教育力を活用した校内研修の活性化が進められ、実践的指導力の向上が図られている。
(例:Sanuma授業塾(H15~))
- ・初任者研修や10年経験者研修において、企業等の社会体験研修を行い教員の視野の拡大を図っているほか、工業教育担当教員を企業に派遣して研修を実施し、高校教育と産業界の連携を強化している。

(3) 学級減に伴う空き教室の有効利用

選択授業の教室や放課後の学習室等として利用し、教育活動の充実を図っている。

(4) 新学習指導要領実施に向けた条件整備

「情報」「福祉」担当教員の確保・機器の整備が進んでいる。

- ・ネット及びコンピュータの整備状況
教科「情報」のためのインターネット接続状況 100%(H19)
- ・講習の実施により「情報」「福祉」担当の教員を確保した。